

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に基づき、現場職員で作成した行動理念・行動目標をスタッフルームに掲示。朝礼時には唱和している。	接遇ルール12項目(してはいけないこと)を各所に掲示し、理念の共有、実践につなげています。また、理念を具現化するために、「利用者を中心にした職員のチームワーク」の構築にも取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症が5類に移行し、令和6年度から一同に会しての運営推進会議が再開。出席者からの情報をもとに地域集会所で行われる週一体操などに参加し、地域との交流を図っている。	平成27年に発足した「介護コミュニティの里づくり協議会」が地域事情により解散しましたが、運営推進会議出席者からの情報をもとに、地域集会所で行われる週一体操への参加等、新たな地域交流に取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事などへの参加を通じて、職員の支援をみていただく機会としたり、認知症に関する問い合わせがあれば、管理者を窓口に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和6年度から運営推進会議を再開。施設の入居・活動状況等を報告、地域の行事予定等を伺い、出席者からの必要な意見や助言はサービスに結びつけるように取り組んでいる。	対面による運営推進会議が再開され、会議では、施設の活動状況、利用者の生活状況の報告や感染防止対策、職員の研修状況等のタイムリーな課題について意見交換が行われていることが議事録から確認できました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や中津市GH連絡会、研修会など情報交換する機会がある。判断に迷うような案件があれば、都度、報告・連絡・相談を行い、適切な判断のうえでサービス提供できるように努めている。	運営推進会議での意見交換や中津市GH連絡会、ZOOM開催のGH合同研修会等を通しての情報交換が行われています。また、運営課題についても、適宜、助言を頂く等、良い協力関係を築くよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は勉強会や意見交換を通じて、身体拘束のないケアに努めている。入居者に束縛感や圧迫感を抱かせないようなケアや環境づくりに努めている。	レポート形式による全体研修の一環として、身体拘束、権利擁護、虐待防止に関する研修を行い、身体拘束をしないケアの実現に努めています。また、接遇ルール12項目を遵守し、利用者に束縛感や圧迫感を抱かせないようなケアや環境づくりに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修のテーマとして、身体拘束防止と権利擁護を含めて学習する機会がある。職員個々が意識を維持向上できるように、レポートで自施設の振り返りを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は市が推進する市民後見人の養成講座を修了し、適切な助言や支援ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時、入居前に運営方針及び目的、費用等について説明を行い、理解（同意）が得られた上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望をしやすいような関係づくりに努めている。年1回満足度アンケートを実施し、集計結果をフィードバックしている。いただいた意見や要望は職員間で共有し運営に活かしている。	外部評価に係る家族アンケートに加え、介護サービス、施設整備、職員の対応についての満足度アンケートを実施し、集計結果をフィードバックし、その後の運営に反映させていることが確認できました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回は職員と面談を行い、意見や要望を聞く機会を設けている。また、職員会議等で意見交換できる場を設け、運営に繋げている。	管理者も日常の利用者支援の中で、随時、職員の意見や提案を聞き、課題を共有しています。また、年1回行われる職員との面談において提案された意見、要望を協議し、その後の運営に繋げています。	今後は、職員会議を含む諸会議の在り方を工夫し、運営の諸課題等について周知を図ると共に、意見交換できる機会を広げて行く取り組みが望まれます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員はそれぞれスキルアップや長所が発揮されるような年間目標を設定しており、法人は職員が資格取得等、向上心をもって就労できるようにバックアップ体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回、自己評価及び第三者評価を実施し職員のスキル把握に努めている。また、グループ全体の研修会を毎月行い、知識や技術、プロとしての心構えを育む取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内GHの管理者が集う連絡会で情報交換や意見交換を行う機会がある。又、市内GHの職員を対象とした見学や合同研修を通じて、資質向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の折、相談に至った経緯・生活歴を相談者に聴取すると共に、本人と面談し円滑な施設入居・関係でスタートできるようにアセスメント作成を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の折、相談に至った経緯・生活歴を聴取すると共に、本人の生活に対する要望を聞き取り、ケアプランに反映させるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の折、本人の状態や要望等から他のサービス利用や資源の活用が望ましいと判断した場合には、情報提供や必要な助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできること・関心あること・得意なことを理解し、共助の関係であることを念頭に柔軟な対応を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時職員の立ち合い(必要時)や電話で随時報告を行い、本人と家族の橋渡しを行っている。緊急時は家族へ報告や相談を行い、意向確認をしながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策を講じた上での面会や長年通う医療機関への通院等、馴染みある人との交流や習慣が途切れないような環境や支援を心掛けている。	コロナ渦中にあつては、直接の面会、交流等が制限されていましたが、現在は、面会時間の設定はあるものの、感染防止に留意しながら、家族、馴染みの人との直接の面会、交流等ができるよう柔軟な支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おおまかな1日の流れがあり、ティータイムやレクリエーションの参加を促し、入居者が集う時間を設けている。職員も輪に入り、入居者の関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要な助言や支援はできること伝え、気軽に相談いただけるような関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話しやすい関係づくりに努め、本心を汲み取れるように努めている。また、目配りや気づきを大切にし、気持ちに添った支援を心掛けている。	管理者、居室担当者を含む介護スタッフ等がそれぞれの立場で利用者との話しやすい関係づくりに努めています。また、日常生活の中での小さな「気づき」を積み上げ、暮らし方の希望、意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に聞き取りや情報提供により、生活歴を確認し、入居後も本人との会話や家族、知人の面会時に話を伺い、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者それぞれの理解が深まるように居室担当者を設定している。日々の心身の状態や変化に気をつけ、居室担当者を中心にタイムリーに情報共有や対応がされるように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケア記録や居室担当者による分析、本人や家族の要望、本人の心身の状態等をすり合わせながらモニタリングや計画作成を行っている。	担当職員を中心とした日々のケア記録や本人、家族の要望等を取り入れたケアプランの策定、評価、見直しが確実に行われていることが諸記録により確認できました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の活動内容や様子、援助内容等を時間毎に記録に残し、普段と異なることあれば、口頭での引き継ぎや記録物確認を通して情報の共有を行い、実践に繋がるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人や家族の希望に沿えるような支援を心掛け、自宅のような心地良い生活が送れるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方からのお誘いやご協力のもと、地域で行われている催しや週一体操の活動に参加し、広く顔見知りの関係が作れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を第一優先にかかりつけ医を決めている。受診時は職員が状態や経過報告を行い、適切に医療提供がされるように努めている。状況に応じて医師や家族に報告・相談をしている。	本人、家族の希望するかかりつけ医への受診が行われています。原則として、市内は職員、市外は家族が付添い、情報を共有しています。また、隔週1回の往診と歯科医師による訪問診療も行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタルチェックを行い、状態の変化に注意しながら観察している。また、健康上の気づきがあれば、主治医への相談や受診等で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかに情報提供を行うと共に、随時面会にて状態や経過の把握に努めている。又、MSWと連絡を取り、入院による不安や退院支援が滞りなく対応できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対応できる状態については入居時に説明し、同意の上で利用を開始している。意向に応じて可能な限り責任者と相談しながら方針を共有し、本人にとって望ましい支援を心掛けている。	重度化や終末期のあり方については、入居時に本人、家族等と話し合いを行うと共に、状況の変化に応じ、関係者と協議し、方針が共有されています。終末期には、「施設介護支援経過」記録を作成し、医師、事業所、家族と連携した濃厚なケアが実践されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、職員が確認しやすい場所に設置している。看護の有資格者や救急救命の講習受講者にて、緊急時の早期対応ができるように体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の連絡体制の整備や年2回の防災避難訓練を実施している。地域の自主防災組織にも加わり、過去、地域の防災避難訓練に参加した実績もある。	年2回の防災避難訓練が行われていることが記録、写真等から確認できました。なお、地域事情により、地域自主防災組織(協力体制)の再編成が余儀なくされ、次年度に向けて、地域との協議、検討が行われています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として一人ひとりの誇りやプライドに配慮した言葉選びを心掛けている。接遇ルール12項をもって不適切な接遇にならないよう取り組んでいる。	一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した「心を開いてくれる」言葉選びに心がけています。また、接遇ルール12項目をトイレ等の職員の見やすい所に掲示し、その意識づけに取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が遠慮せずに、自身の思いや希望を表現できるよう受容した態度で、声掛けや傾聴を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課(体操や入浴)はあるが、入居者の気分やペースを第一に、状況や状態に合わせた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の理容・美容師が来て、本人の希望を聞きながら散髪している。誕生日月には生花(アレンジメント)を送り喜んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別の使い慣れた茶碗やお箸を使用し、行事の際には、喜んでいただくことに主眼をおいた献立の提供に努めている。また、個人の能力や気分に合わせて食事の準備や後片づけを職員と一緒にやっている。	事業所自前の食事が提供されています。毎食事、職員と一緒に盛り付けや食器洗い等を無理のない範囲で行っています。また、毎日曜日には職員と一緒に手作りおやつを楽しんでいる姿が写真等で確認できました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量を個別に記録し、食事量の減少があれば、状態に合わせた補食等で対応している。水分量の少ない方には、本人の好物等を提供し、低栄養・脱水予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、介助が必要な人にはブラッシング・うがい・義歯洗浄を行なっている。義歯は夕食後に義歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンやリズムを把握し、個々に応じたタイミングで声かけや誘導を行っている。安易なオムツ使用は控え、排泄動作も貴重な残存能力の活用のもと取り組んでいる。	排泄チェック表から、一人ひとりに応じた声かけやトイレ誘導を行っています。排泄用品も本人が受け入れ易いものを使用し、出来るだけ自分の足でトイレに行くよう誘導する等、排泄の自立に向けた支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度に体を動かす機会を設けるとともに、水分補給やオヤツにヨーグルトを取り入れ、自然排便に繋がるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を予定し、体調や気分に合わせてながら実施している。衣服の準備からお風呂上り迄、一対一での対応を基本とし、プライバシーにも配慮しながら実施している。	ユニット毎に週2回の入浴が行われています。入浴に伴う一連の介助は、一対一での個別対応を基本とし、プライバシーに配慮した、ゆっくりとした時間が設定されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情や体調の変化に気をつけ、気分等に応じて休息を促している。日常では集団活動や余暇活動への参加を促し、規則正しい生活リズムが定着できるように日課を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの内服薬と薬効を纏めた表を作成している。状態や服薬は記録に残し、状態に変化があればかかりつけ医に報告・相談し、対応に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の趣味や特技等を把握し、生活の中で活かせるように支援している。ご家族などから嗜好品の差し入れがあれば個別に提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染状況をみながら楽しみや気分転換を目的とした外出や、馴染みある病院への通院継続を目的とした外出の機会を大切にしている。	コロナ渦中にあつては、日常的な外出支援は大幅に減少していましたが、最近では、近隣の散歩、耶馬溪ダムへの紅葉狩り、サイクリング道路での花見、馴染みのある病院への通院等の外出支援に努めていることが広報誌(あんずフォト)により確認できました。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則お金は職員が管理しているが、入居者の希望や管理能力、本人が安心感を得るために所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からご家族へ年賀状や暑中見舞い作りを季節レクとして行い、ご家族からご本人へ母の日父の日にメッセージカードを作成していただき、ご本人とご家族の関係を大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓は掃き出しの窓で圧迫感がなく、身近に季節の移ろいを感じられる造りになっている。廊下には昔懐かしい写真、中庭や敷地内には多くの草木があり、懐かしさやゆっくりと流れる時間を感じられる工夫がされている。	施設の中庭や敷地内には多くの草木があり、自然の趣を感じられる開放的な造りになっています。共用空間は、「施設」というよりも「家」という感覚を大事にし、過度な飾りつけは控え、清潔で落ち着いた雰囲気を感じられるような配慮がなされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	過度な飾りつけは控え、清潔で落ち着いた雰囲気になっている。入居者個々の性格を踏まえての席の配置や、ソファを設置し、独りや気分転換しやすい空間にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は家具や寝具など、利用者の使い慣れたものなど持ち込んでいただき、レイアウトも本人が快適に、安全に過ごせるように配置、整備している。	居室内はベッドとクローゼットを除き、利用者の使い慣れたものを持ち込んで頂き、レイアウトも本人が安全で居心地よく過ごせるような配慮がなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	木造平屋造り。施設内はバリアフリーで、廊下やトイレ内に手すりの設置があります。利便性ばかりではなく、認識しやすく、使いやすいうように考えている。		